

臨床研究マネジメントのプロフェッショナルへ

臨床研究を支えるデータ・マネジャー、プロジェクトマネジャー、薬事専門家、IT専門家などを養成するためのコースです。公衆衛生学専攻で行われる授業科目に加えて、大学病院臨床研究推進センターなどでの実習を含めた実践的な教育を受けます。

卒業生の声

MPH



有吉 恵介 さん

(平成24年卒、東大医科学研究所、NPO法人JORTCデータセンター)

志望動機は、臨床試験データマネジャーとしての業務を行う中で、臨床試験におけるデータ管理の重要性を認識する一方、その難しさを痛感したことが端緒でした。

修士課程では講義において、医学概論や研究倫理、臨床研究の基礎などに加えて、臨床試験データ管理の方法論について学びました。また、所属するゼミにおいて、定期的に研究テーマについて発表し、他の院生とのディスカッションや指導教官からの助言・指導を通じて、検討課題を洗い出し、テーマをさらに掘り下げることができました。

現在、主に緩和ケア領域の臨床試験の支援業務(データ管理)に携わっていますが、私の研究結果を直接生かすことができしており、今後、日々の業務を通じてさらに研究テーマを発展させていきたいと考えています。



米田 茂広 さん

(平成25年卒、大塚製薬(株))

元々、東北大学の薬学部に所属していましたが、医薬品開発のプロセスの中で臨床試験に関して興味があったため、このコースを志望しました。

修士課程では、臨床試験に関わる法・規制(倫理指針、GCP等)や治験デザインには欠かせない生物統計を学びました。実際に製薬企業で医薬品開発に携わったことのある方や規制当局で医薬品の審査をした方に講義・指導して頂く機会があり、文献だけではわからない多くのことを学ぶことが出来ました。

現在、私は製薬企業で臨床試験の開発業務に関わっています。実際に仕事を行うには、まだまだ勉強しなくてはならない事もたくさんありますが、大学院で学んだ知識はそのまま仕事の業務に関連しており、大いに役立っています。